学校運営協議会だより

２０２２．１．１３

町田市立町田第六小学校

会長　楚阪　博

校長　薄井　智美

第３回　学校運営協議会が１月８日（土）に行われました。

　校長・副校長からコミュニティ・スクールとしての取り組みの報告及び児童・保護者・教職員の教育活動アンケート結果を報告し、協議会委員の皆様からご意見をいただきました。

コミュニティ・スクールとしての取組　学校より

学校地域協働活動について

地域連携担当を若手教員に任命し、地域の人材を生かした教育活動の充実を図った。各学年の担任と学習のねらいや育てたい資質能力について、地域の方と共有して学習を進めていく。

学力向上について

まちとも算数教室での補習が効果を上げている。６年生学力調査の結果が２０１９年度と比較して今年度は正答率が低い児童が減り、正答率が高い児童の割合が増加。

委員の皆様から

・　学校がねらいをもって地域とともに児童を育てるという姿勢が今年度はよく伝わって

　　きている。

・　ボランティア参加の活動が昨年とは違い、良い方向で工夫されている。

・　ねらいは分かるが、教員の過度な負担にならないようにしていきたい。

・　地域連携担当教諭を設定しても、結局副校長と連絡するほうが便利である。

・　地域人材と共に学校の栽培計画を立てる時間を年度当初に設定したことが良かった。

　　継続したい。

・　合唱や合奏など保護者会の前に行うことで、保護会の参加率が向上し取り組みを広報することになる。

・　まちとも算数教室には教員免許をもった人も多くいて、効果が上がっている。

・　地域の人材活用を進めたい。ICTの授業、野菜栽培の授業などは地域の専門的な技量をもつ方にお願いするのが良い。

・　水泳指導や音楽のリズム学習など、以前は外部指導者が入り、楽しんで行うという活動ができていた。継続できるとよい。

教育活動アンケートより　学校から

・学校の取組「いじめ防止、体罰防止、子供の人権を大切にしている。」について、「分からない」と回答する保護者の割合が２７％。

・友達関係についての問題を子供たち自身で解決できる力を身に付けるべきで、親が介入しすぎという声がある一方で、毎月行っている「心のアンケート」が形骸化し、子供は本当のことを教員に伝えていないという危惧もある。学校では、一人で悩まずに周りにいる大人に相談しようと呼び掛けている。悩み、苦しんでいる子供がいることも事実なので、担任、専科、スクールカウンセラー等、全教職員で児童理解を行い、人との関わり方を共に考え、解決できる力を育てている。

委員の皆様から

地域の安全について

・　通学路の安全について、学校と連携して取り組めている。

・　降雪時の道路の整備について具体的に学校やPTAにできることはないか。

→　自治会と連携をとってやるとよい。

　　（その後、学校から融雪剤を保護者にお渡しし、ボタン信号のところの坂道に有志　　　　で撒いていただいた。ありがとうございました。）

・　民生児童委員との会合で、課題を検討できたのはよかった。

委員の皆様には児童・保護者・教職員の教育活動アンケート結果を踏まえ、学校経営計画・学校評価表に評価をご記入いただきます。（１月２４日まで）

それらを次年度の学校経営計画に反映し、教育計画を作成します。

次回　学校運営協議会　２月５日（土）９：３０〜１０：３０